

「平成30年度全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立七栄小学校】

平成30年4月17日(火)に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の実施結果についてお知らせします。

1 児童が受けた調査について

「国語A・B」、「算数A・B」、「理科」、「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

(1) 教科に関する調査

〔主として「知識」〕 国語A, 算数A, 理科	〔主として「活用」〕 国語B, 算数B, 理科
身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

出題範囲：調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則

(2) 児童に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/18chousa/18chousa.htm>

2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について (※ 全国公立小学校の平均正答率(以下全国平均)との比較)

国語A(知識)	基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能に関する問題	C
国語B(活用)	基礎的な知識・技能を活用する問題	C
算数A(知識)	数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能に関する問題	C
算数B(活用)	基本的・基礎的な知識・技能を活用する問題	C
理科(知識・活用)	『知識』に関する問題及び『活用』に関する問題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

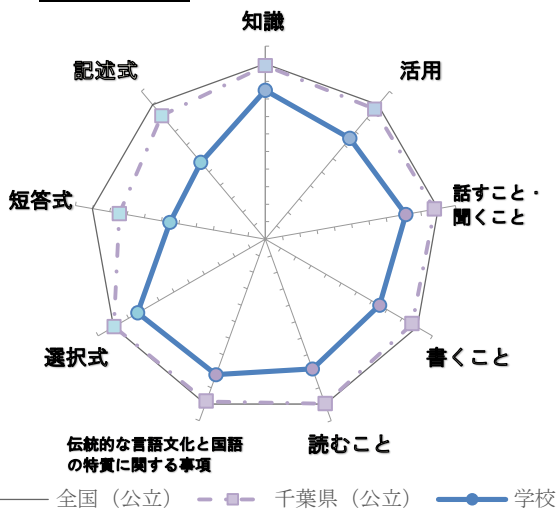
A : +5.0%より上回っている場合「良好」

B : +5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C : -5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



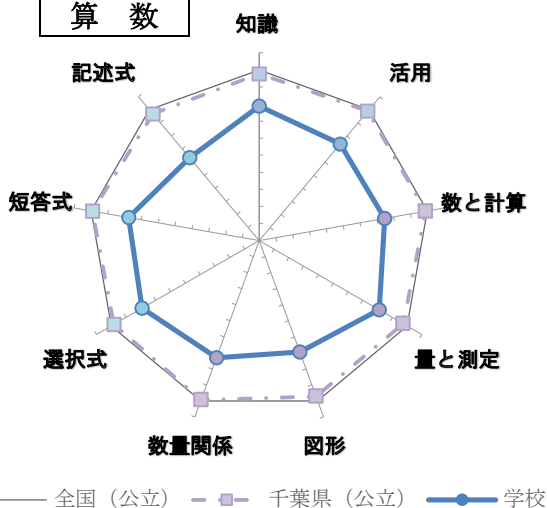
【特徴と現状】

- 文の中で正しく漢字を使う問題は、正答率の高い結果となりました。
- 知識（国語A）の「話すこと、聞くこと」は、県平均に少し近づいていますが、活用（国語B）の「話すこと、聞くこと」が課題となりました。
- 領域別では、「読むこと」が国語A、国語Bともに下回りました。具体的には、日常生活で使われている慣用句の意味理解の正答率が下回りました。
- 問題形式の 카테고리では、記述式、短答式がやや下回り課題となりました。

【改善方策等】

- 知識を応用して活用していくことが課題となりました。そのため、意図的に知識を活用したり、広げたりすることのスキルの指導や改善を図ってまいります。
- 漢字の読み書きについては、繰り返し練習し身に付けることや、基礎基本を軸に、得た知識を活用してその技能を習得し、活用できるよう授業改善を図っていく取り組みを行ってまいります。
- 読んだり、聞いたり、話したりしたことを、目的に応じて「書く」「話す」活動につなげる授業作りに努めます。
- 語彙力や文章表現・構成の技能などの向上を図る学習活動を定期的に取り入れるよう努めます。

算数



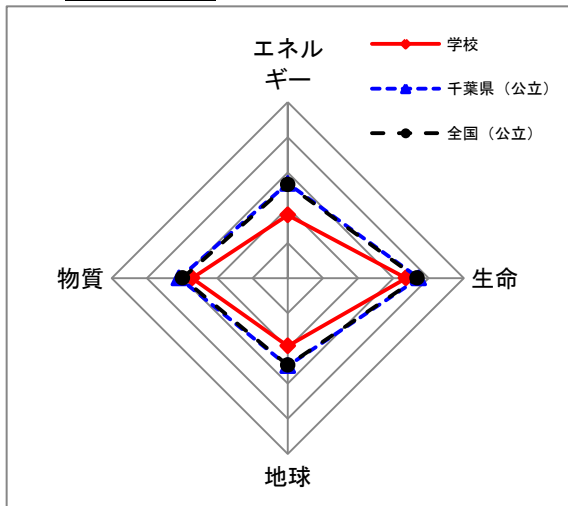
【特徴と現状】

- 児童質問紙から、「算数が好き」と回答する児童は、平均を大きく上回っています。
- 全体的に平均を下回る平均正答率となりましたが、知識（算数A）の「量と測定」結果は、やや平均に近い値となりました。しかし、活用（算数B）の「量と測定」が課題となりました。
- 観点別では、数量や図形についての知識・理解及び技能が課題となりましたが、問題によって平均正答率を上回っています。
- 問題形式における「記述式」が「選択式」や「短答式」に比べ下回り、課題となりました。

【改善方策等】

- 算数への興味・関心は高く、国語同様に繰り返し練習し身に付ける計算などを継続して行い、基礎基本を軸に、技能面の習得を図り、活用・応用していく授業作りに努めます。
- 日頃の授業から、児童相互が話し合いの中で思考し、考えを深める場を取り入れるなど、主体的・対話的で深い学びのある授業改善を図ってまいります。
- 記述式においては、どのような筋道で解いたのかを文章で表現したり、お互いに検討したりする活動を取り入れるように努めます。

理科



【特徴と現状】

- 「生命」「物質」の問題中数問は、平均を上回るかそれに近い数値となりました。
- エネルギーの問題中、乾電池を使ったの電流の流れ方や検流計を使った実験からの科学的な思考・表現が課題となりました。
- 記述式では、よくできており、平均に近い数値結果となりました。
- 実験の結果や、調べた結果から言えること等、正しい答えを導くことができています。

【改善方策等】

- 検証実験の際の「予想する」「仮説を立てる」など実験計画段階において、より深く思考し、表現できるような意図的に活動の場を設定するように努めます。
- 実験での予想や結果には、多様な表現の仕方（文章、絵、図など）があることを意識できるように指導してまいります。
- 日常生活であまり使われていない科学的な言葉（例；浸食、運搬、堆積など）の意味の理解を促すため、身近にある様々な事象を、これらの言葉を意図的に使って説明したり表現したりする場面を作っていくよう努めます。

(3) 児童質問紙の結果及び分析

「学校のきまりを守る」や、「いじめをしない」等規範意識は非常に高く、平均を大きく上回っています。また、「家の人と学校での出来事について話をする」は、75.5%、放課後や休日の過ごし方（複数回答項目）の中で、「家族と一緒に過ごす」は、86.8%でした。家族と時間を多く過ごしている割合が高いことがわかりました。しかし、複数回答の内容に、「テレビやDVDを見たり、ゲームやインターネットをしたりして過ごす」（88.7%）と回答した児童が大変多い結果となりました。

「算数の勉強は大切」「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」と意識している児童の割合は、75%以上でした。算数が大切な教科であると捉えている児童が多い傾向にあります。一方、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがある」、「自分で計画を立てて勉強をしている」「算数の勉強は好き」と答えている児童は、二極化の傾向となっています。地域との関わりや、計画的に学習を進めていく習慣を身につけていくことが求められます。

3 まとめ

児童質問紙において、「自分で計画を立てて勉強をしている」、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」、「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずいろいろな方法を考える」といった質問で肯定的な回答をした児童は、国語 B (活用)、算数 B (活用) において正答率が高く、相関関係が見られました。活用の力をさらに伸ばしていくために、グループ内で説明することや、考え方の多様性を持たせること等工夫した授業に努めてまいります。

総合的には、全体的に学力を向上させていくことが課題となっています。学校においては、基礎基本を軸に、以下の観点を位置づけた授業が展開できるよう努めてまいります。

- ① 知識・技能を身に付けていくこと
- ② 思考力・判断力・表現力を各教科の中で意識し、育てていくこと
- ③ 主体的に学びに向かう力をつけていくこと

ご家庭におかれましては、継続した規則正しい生活、計画性を持たせた学習習慣を整えていくとともに、地域との関わりに関心をもたせていくなど、一層のご支援ご協力をお願いします。